

## 雑音談義

de JA1RIZ

HOMEにいるときは50.240のタヌキワッチしていることもあるが、ノイズを聴いていることが多い。

たまには、50.480や50.017のビーコンを聴いてコンディションはどうか確かめてみる。何となくバンドが騒めているときはFB-CONDX！に遭遇することもありだが、このところはご利益にありつけていない。先日はメキシコがCWで良く入感していたがパライーツ？？呼ぼうか呼ぶまいか迷ううちにフェードアウト。本物の可能性もあるので呼んでおけば良かったはあるアワードホルダーの言！(ANTがGPだがこんなこともあるのか？)

その点、144や430は賑やかだ。メインにダイヤルを合わせておくと懐かしいコールを聴くこともある。先日は同じサフィックスのコール聞いた。かなり以前に9エリアで同じサフィックス局とQSOしたときは興奮(?)しました。それ以降は同じサフィックス局と繋がったことがありませんが、チャンスがあればQSOしたいものです。

じっくりワッチしていると、思いもよらない所が聞こえてくることもあります。V/Uの世界では伝搬距離300～400kmなどは普段は飛ぶはずもないような距離である。多素子4パラ2段などシングルANTよりスゴイANTならいざ知らず、GPなどではとても、とても世界かと思いますが、それが聞こえることもある由。ダクト伝搬といわれるような特殊な現象に遭遇することができればとの話ですが。

JK1RYF局によれば、東北↔信越の間では「日本海ダクト」が度々発生してV/Uで遠距離交信ができるとの事。別の情報として、430で岡山↔伊豆の国市でもGPで楽勝に約470kmのQSOができたとの話も聞いた。うらやましい限り。まだまだ、ワッチ道が足りないのかも…と痛感する次第です！

子供が赤ちゃんの頃、ピーピガーガーとスピーカから音を出してワッチしていると、XYLからは「うるさい！」とクレーム。しかし、その「音」は子供にはウルサイの様子はなく、かえってスヤスヤと寝ていたようだ。この雑音の音が、胎内音に近いようで「安心な音」として聞こえているのではないかと勝手に解釈。この雑音の音を聴いて育ったためか成長後も、夢中でHAM-ingしているそばの子供から「ウルサイ」の言葉はなく安堵したものだった。XYLからは相変わらずの反応であったが…。

今や、FT8などデータ通信の時代で「ノイズ」との戦いに奮戦することからは、縁遠くなってしまっているような感じではある。

一昔前(ふた昔前か？)の外国航路の通信士といえば「花形」の職業で、これにあこがれたOM&OT諸氏も多くいたのではないだろうか。難関は高速のCWの通信術であって、これに手が届かなくて諦めた人が多かった。船舶向けに新聞記事を和文CWで送信していたが、それを受信して船内向け新聞を作るのも通信士の仕事の一つだったが、その和文CWを聴きながら記事の原稿を直接にガリ版刷りに書いていた、などという話もあり、超人的な能力の持ち主であったという。

その後、ファクシミリが実用化されるようになり、更にデータ系に移り変わり、「神業」的CW術も不要となつた。しかし、今も、業務用通信でも「電話」部門の和文通話・欧文通話の実技は必要なようで、データ系通信と共にこの電話というアナログモードは残っていくだろうか。

なんだか雑音の話が脱線してしまった。

雑音の中から、信号を聞き取る技術・能力はアマチュア無線「通信士」としては必要な事である、とは持論であります。その意味では、『雑音また楽し！』と云えるかもしれませんね。

(おわり)